

評価委員意見等

別紙

項目	意見・指摘等（抜粋）	委員	回答（津島市民病院の状況等）
入院患者	○ 新入院患者数が減少している原因についてどう考えているか。具体的な対策は。	松浦委員	⇒ 年度当初における救急及び紹介の件数の減少により入院患者数が減少。営業活動、救急車お断りの減少などに努め、新入院患者数の向上を図っている。
	○ 病床稼働率低下の主たる診療科は。	岩瀬委員	⇒ 12月までの「1日あたり入院患者数」を前年度と比較すると、外科（▲9.3人）、小児科（▲5.8人）、リハビリテーション科（▲4.7人）、脳神経外科（▲3.9人）、消化器内科（▲3.3人）において減少数が多い。
救急	○ お断り件数が多い。	松浦委員	⇒ 「救急車が重なった」、「医師が手術中」、「医師が重症患者対応中」など、やむを得ない理由によるお断りも多くある。また、「患者・家族によるお断り」もまだある。より評価される医療提供に努めていく。
	○ 救急車搬送件数は思っていたよりも多いが、お断り率が高い。	岩瀬委員	
	○ お断りをした医師には理由書をしっかり書かせている。	岩瀬委員	⇒ 「救急患者届」の中に「対応困難理由」を記載する欄があり、そちらに記載し、院長、副院長、救急医療部長等へ報告（回覧）している。
	○ 救急車のお断り件数はカイゼンしているが、応需すべき症例の精査内容は。	岩瀬委員	⇒ 上述の「救急患者届」の回覧の際に、救急医療部長を中心として精査を行っている。
	○ 救急隊員との診療科別の症例検討（お互いの不満を伝え改善の検討）を行っているか。	松浦委員	⇒ 定期的に関催（2か月に1回程度）している。救急部長が実際の事例や救急隊の考えを直接聞いている。
	○ 救急車受入件数が減少している原因についてどう考えているか。具体的な対策は。	松浦委員	⇒ 全体としては微増だが、津島消防からの中等症患者が減少している。津島消防としっかり話し合っていく。
	○ 研修医が増えていることは良い。救急をしっかり回すためには重要。	岩瀬委員	⇒ ここ数年、安定的な確保ができています。（30年度も、6名のフルマッチ。）
	○ 実行計画に記載の「消防署と継続的な意見の交換と共有」とは、具体的にどのような活動か。	松浦委員	⇒ 日ごろから、救急搬送全般の情報の聞き取りと意見交換、救急隊の現場からの要望の聞き取りなどを行っている。
紹介（開業医訪問）	○ 紹介患者数が目標を下回っている原因についてどう考えているか。具体的な対策は。	松浦委員	⇒ 市内の集団検診協会が内科クリニックを併設する形へと変わり、ここからの紹介が減少したことが大きい。開業医訪問等の営業活動にこれまで以上に力を入れていく。
	○ 良くも悪くも地域連携担当医師に左右される。担当医師を変更し大きく改善したことがある。新担当医師（副院長）が、全ての開業医を1か月で回り、アンケートを実施した。一部の診療科への不満等も聞かれたため、院長と地域連携担当医師とで、診療科との調整を図った。	松浦委員	⇒ 昨年度に地域連携部門を他の部門（医療相談、入院案内）と一体化し、入院前から退院後の生活を視野に入れたシームレスな患者の支援を行い、また、地域との連携をさらに強化し地域包括ケアシステムが円滑に機能するための役割を果たす「地域医療センター」を設置。そのセンター長に医師が就き、開業医訪問等を積極的に行っている。
	○ 実行計画に記載の「医師訪問活動」とは、具体的にどのような活動か。	松浦委員	⇒ 「患者紹介実績へのお礼並びに今後の紹介依頼」、「開業医と市民病院との連携についての意見聴取」、「患者さんからの市民病院への苦情等の有無の確認」などを行っている。
診療報酬加算（施設基準）	○ 加算が取れない理由等の問題点を明確にして、解決する方法を指南するなど、具体的な解決を図るために専門的なアドバイスをいただける方はいるか。	松浦委員	⇒ 医事業務委託先の業者から、「施設基準の届出の検討が必要と考えられる項目」や「医学管理料を対象として、実施することで増収可能となる項目」などの報告を受けている。
	○ 加算を取るためには病院全体として一見無駄と思えることも努力してやらなくてはいけない。院内に向けその方針を決定する権限と責任が必要。。	松浦委員	⇒ 院内の常置委員会である「診療報酬適正化委員会」において検討することと位置付けている。
	○ 地域支援病院の指定を受けることは検討しているか。	松浦委員	⇒ 以前に検討を行い、要件を満たせないということで当時断念したことがある。現状、検討は行っていない。
	○ 特定集中治療室管理やハイケアユニットの施設基準の届出は検討しているか。	松浦委員	⇒ ハイケアユニットの施設基準の届出を行い、今年度11月から算定している。
職員満足度	○ 現場の意見はどこまで聞かれているか。職員の満足度調査を行うと、様々な問題点が発見されることがある。やらなくては解らないことがたくさんある。	松浦委員	⇒ 診療科や部門のヒアリングを実施。現場の考え、思っていることの共有・改善を図る。
	○ 院長宛の医師のご意見箱、職員ご意見箱（匿名、記名可）を設置・周知した。この取り組みにより様々な問題が発見され解決した。	松浦委員	⇒ 院長宛の意見箱を設置している。改めての周知とともに、意見を出しやすくする工夫の検討が必要と考えている。
	○ 職員のモチベーションを高めるような努力をしているか。	松浦委員	⇒ 仕事に関する個人目標を設定し、達成に向け業務管理する「目標管理」を実施している。院長から職員向けにメッセージを発信している。
医療機器整備	○ 実行計画に記載の「医療機器購入計画」はどのように立てているか。	松浦委員	⇒ 各診療科の希望（更新優先度）を把握するとともに、その必要性や収益性（患者数・症例見込など）も考慮しながら、今年度中に策定する予定。
学会参加補助	○ 学会参加が増えているが、参加補助はどの程度か。	岩瀬委員	⇒ 参加費（負担金等）は年1回に限り支給、出張費（旅費）は年2回まで支給している。